

規制の壁を越えて新事業創出

プロジェクト型 「規制のサンドボックス」

1. プロジェクト型「規制のサンドボックス」とは

- 「革新的な技術やビジネスモデルを早期に事業化したいが、規制があり、事業化できないかもしれない・・・諦めようか・・・」
- **新事業のアイデアを既存の規制の枠内だけで考えていませんか？**
- 規制の壁を越えて革新的技術やビジネスモデルを創出できる可能性



プロジェクト型「規制のサンドボックス」

1. プロジェクト型「規制のサンドボックス」とは

“まずやってみる”

現行規制が想定していなかった技術やビジネスモデルを活用したい。
しかし、事業として行えば規制に抵触。

規制改革のためには、裏付けとなるデータが必要。

(事業としてではなく) 期間や参加者を限定し「実証」として行う

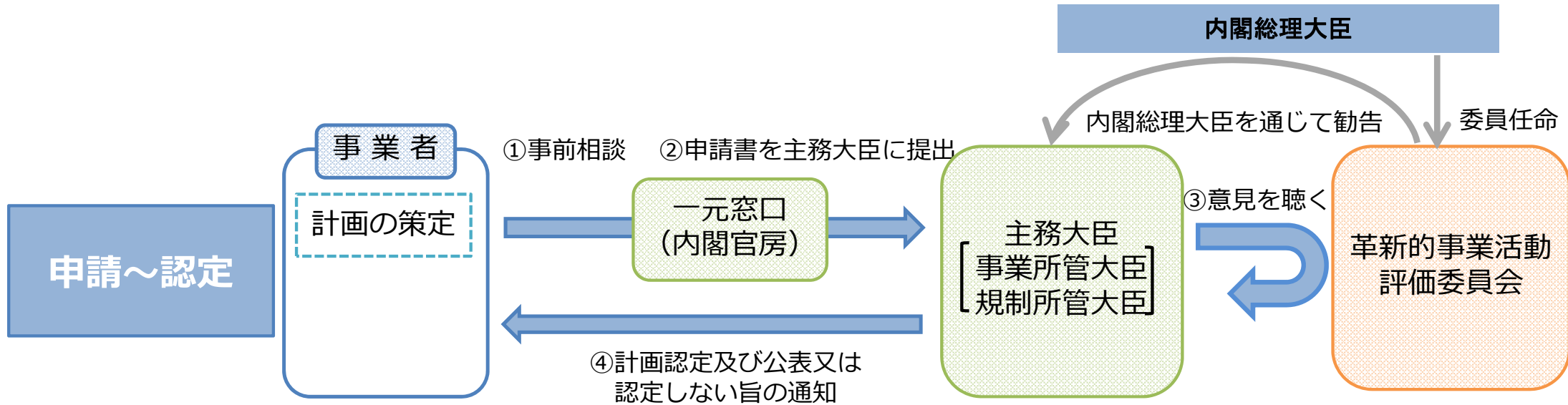
《新技術等実証制度》

AI、IoT、ブロックチェーン等の革新的な技術の実用化の可能性を検証し、実証により得られたデータを用いて規制制度の見直しに繋げる制度。

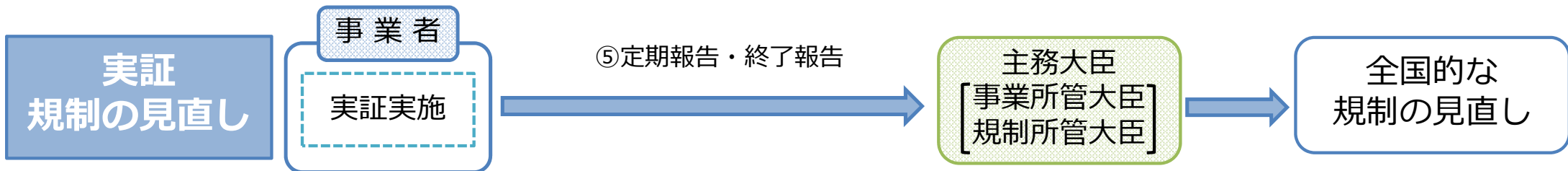
実証でデータを集め、それを基に規制改革

新技術・新事業の創出へ

2. プロジェクト型「規制のサンドボックス」 <制度概要>



注) ②から③までに1か月以内、意見受領後から④まで1か月以内



注) 規制の見直しは規制所管官庁が実施

2. プロジェクト型「規制のサンドボックス」〈制度概要〉

申請書記載事項

○実証内容

- ・ 新技術又は手法等（例：AIを使った〇〇という事業）
※特定の事業分野において新規性がある技術やビジネスモデルであればよい。
- ・ 実証内容と実施方法（収集するデータの内容、収集方法及びその活用方法）等

○参加者等の範囲（サービスの利用者等）

○参加者の同意の取得方法

- ・ 参加者に対し、実証計画の認定証を提示し実証に参加することの同意を取得する。
（例：電子上で認定証を提示したうえで、同意ボタンを押させる等）

○実証の期間・場所（例：期間3か月 場所：〇県〇市の～の範囲、インターネット空間上等）

○実証に関する規制法令（例：〇〇法の〇条）

○実証に必要な規制の特例措置の内容

- ・ 実証を行うために必要な場合には規制の特例措置を講じて実証する。

○実証を適切に実施するための措置

- （例：関係者以外が立ち入らないようにフェンスを設ける、補助員を配置する等）

3. 各規制改革スキームの関係

